



東京部会(第130回)

日時: 2022年11月19日(土) 15:00 -17:00

場所: 慶応義塾大学三田キャンパス東館5F会議室+Zoom

参加者: 20名(会場5名+zoom14名)

【内容要旨】

(1)佐々木啓真先生(東京都立世田谷泉高等学校)より「高等学校における社会保障教育に関する一考察」の報告があった。

社会保障教育は経済教育の要であると位置づけで、限られた授業時間で生徒が社会保障制度について自分事として捉えることができる授業案の提案と実践の紹介である。

授業構成は、導入として、身近な事例から自助・共助・公助を考えさせ、展開として、社会保障制度の概要、「これから」を考えさせ、そのなかで生活設計について考えさせるという流れである。

授業展開ごとにポイントを示しての紹介があったが、それは以下の通りである。

①高校生にとっての身近な例から始める ②共助(社会保険)から伝える ③社会保障制度の恩恵を受けた経験を語る ④財政の単元とリンクさせる ⑤今後のあり方について4つの選択肢を示す ⑥民間保険に関して扱う ⑦社会保障人生ゲームを取り入れる

このうち⑤の四つの選択肢は、社会保障制度の維持⇔縮小、医療保険重視⇔年金制度重視の四つである。また、⑦の社会保障人生ゲームでは、職業選択からはじまり、25歳、35歳と10年ごとに選択と事件が繰り返す設定でのゲームで、社会保険だけでなく民間保険を組み入れた内容となっている。

実践では、特に人生ゲームから触発された意見を書く生徒が目立ち、社会保障制度にレディネスがない生徒が問いや活動により積極的に取り組み、考えることができたこと、また、家庭科教員との連携もあり、社会保障制度を個人と社会の両面から考察できたとの報告があった。

討論では、4つの選択肢のあり方は妥当か、自助と公助の差をどう捉えているか、社会保障のなかのミクロとマクロの関係、カリキュラム全体のなかでの位置づけ、世代間倫理に関してどこまで考えているか等が疑問として提出された。

それに対して、財政の授業後にその応用として位置づけていること、4つの視点に関しては京大の広井良典氏の説を参考にしているがさらに考えたい、公助をどう入れるかなども考えてゆきたいとの回答があった。

最後に、「公共」で実施する場合には、問いを立てることが大事になるので、単元全体を貫く問いとともに、ポイントを絞って問いの数を減らすなどの工夫をすることで教材としての有効性が増すという指摘があった。

(2)杉田孝之先生(千葉県立津田沼高等学校)から「障がい者の働き方を考えるメモ」の報告があった。

これは、冬の経済教室でのパネルディスカッションのなかで提案する予定の授業案の紹介である。

授業は、講演者である中島隆信先生の『障害者の経済学』のなかの、障がい者の働き方をテーマとしたもので、障がい者が一人の労働者として働く主体になるための課題は何で、有効な制度は何か、また、私たちや政府にどんな動機づけが必要かを、多面的多角的に考察、説明できることを目標としている。

授業のポイントとしては、障がい者は「かわいそう」をベースに思考させないこと、働く側と労働を受ける側がともにwin・winになる制度ができないかを考えることの二点を上げている。



授業スタイルは社会参画型授業で構成され、問題把握、問題分析、意思決定、提案参加の四つのプロセスで設計されていて、それぞれのステージでの問い、資料、考えるべき選択肢が説明された。

(3) 続けて、行壽浩司先生(福井県美浜町立美浜中学校)から「冬の経済教育案」の提案があった。

三つの映像からなるもので、一つは、バリアフリーの住宅の写真、二つ目はユニバーサルデザインの商品の写真、三つ目はゴッホの作品の比較である。

中学教科書ではインクルージョンやバリアフリー、障がい者基本法も言葉としては掲載されていることの紹介があり、この三つのスライドから、障がい者は自分たちの外側にいるのではないこと、私たちが障がい者になりうること、支援ではない包摂の考え方、社会モデルによる障がいの考えを伝えたいとのことであった。

(4) 杉田先生、行壽先生の提案に対する討議が行われた。

行壽先生には、経済学習との関連をどう位置づけるかの質問があった。

行壽先生からは、まずは人権学習の箇所を押さえておいて、後半経済学習で労働の学習などでこれを振り返りさせたいとの回答があった。

杉田先生には、障がい者といっても、労働でも働けない人からうつ病などで労働市場から抜け落ちた人まで多様なのでどこまでを考えているのかもっと焦点化した方が良いのではという意見、問題分析や意思決定の場面で登場する法定雇用率、雇用調整金や納付金が否定的に捉えられているが、経済学的には合理性があるやり方で問題はないのではないかな等の質問、意見がだされた。

杉田先生からは、排除の論理のコストを伝えたい、障がいを持った人でも最低賃金以上の働きができ税を納めるようになるにはどうするかを考えさせたいがための授業設計だが、指摘を踏まえて再度考えたいとの回答があった。

関連して、冬の経済教室の進行役の金子幹夫先生(神奈川県立三浦初声高等学校)から、当日の進行とパネルディスカッションでの議論の進め方の紹介があった。

冬の教室のちらしの配布に関して、鈴木深氏(東京証券取引所)から説明があったのち、今回の部会で議論され、指摘された論点をさらに検討して「冬休み経済教室」に臨むことが確認されて終了した。

(記録と文責:新井)

<input type="checkbox"/> テスト問題 (新テストなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 中学	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 指導案	<input type="checkbox"/> 新聞教材(NI E)
--	--	--	---	--

次回開催予定: 2023年2月2日(木)19時00分~21時00分 慶應義塾大学+zoom

議題: 冬休み経済教室の総括、社会保障の授業、共通テスト試行問題の検討 など